

課題研究題目一覧

2008（平成 20）年度修了生

- 磯 香織 学級経営力の向上を目指した研修資料の開発
—初任者・若手教員に焦点を当てて—
- 伊東 大介 小学校教育における博物館を活用した指導の在り方
—歴史学習・地域学習を例として—
- 梅沢 隆史 グローバルな視野を持ち、よりよい社会づくりに参画しようとする「人」の
育成—持続可能な社会のための教育のカリキュラム開発—
- 大貫 博 教師の伝える力・聴く力をみがく
—ソーシャル・スキルの活用を通して—
- 金子 陽子 「音楽的な感受」を重視した音楽科授業の在り方
—音楽のよさや楽しさを感じる自己評価力の育成を通して—
- 川元 泰史 生徒指導の機能を生かした学力向上の実践
- 熊木 崇 東京都区内の単学級小学校における若手教員育成に関する研究
- 齋藤 重雄 学校運営連絡協議会の活性化プログラムの開発
- 白倉 重信 「食育」カリキュラム開発の手順と工夫
—中学校の生徒の実態を踏まえた協働性の高い体制について—
- 高道有美子 小・中音楽科における学習内容の連結を図った教材開発
—中 1 ギャップを埋めるための表現活動の工夫—
- 瀧口 信晴 児童の社会性の育成における評価についての研究
—小学校高学年の学級集団づくりのための活動を対象にして—
- 土屋 和広 健全な内的規準自己肯定感を高める教師の関わり
—感情を受容する学習カードと授業実践から—
- 藤井 徹平 初任者教員の授業力を効果的に育てる方策の研究
—中学校理科の初任者教員との協働を通じた支援から—
- 堀口 明子 生活科指導における指導力の向上についての研究
—経験の少ない教師と同僚としての教師の協働による実践を通して—
- 松岡 弘悟 問題行動を繰り返す生徒の理解と指導のあり方
—情報の共有化を図り、心の理解を通して指導へと結びつける—
- 松本 靖史 外国人生徒の教科学習の課題と JSL カリキュラムを応用した授業
- 山口起世子 道徳の指導ができる教員を育成するための「大学における指導及び教育委員
会における初任者研修のあり方」に関する研究

2009（平成 21）年度修了生

- 新井 清彦 読解リテラシー（reading literacy）を身につける学習指導の方法
—中学校社会科における新聞活用実践を軸として—
- 有井新之助 理論的思考力の育成による探究心の向上一科学的な概念を用いて考えたり説
明したりする学習活動を取り入れた授業づくり—

- 衣袋 健一 学習による成長を実感するための長期的な自己評価の指導
— 一枚ポートフォリオシートの児童と教員の記述分析を通して—
- 内田 浩二 特別支援学校における余暇活動への支援のあり方
- 小川 達也 子どもどうしの話し合いを促進させるための発問の考察
—授業における「ゆさぶり発問」の工夫について—
- 小澤 大心 J S Lにおける「書く力」を育むための効果的支援のあり方
—ピア・レスポンスを効果的にするための学習条件を整えるには—
- 乙顔 晃 中学校理科におけるパフォーマンス評価と学び合いの効果
—質問紙調査と発話プロトコルによる分析—
- 甲斐 葉月 児童の連帯意識を高める授業実践と児童の変容
—ソーシャルスキル教育の理念を生かして—
- 梶原 郷 道徳の時間における自作教材開発の工夫
—教師自身の感動体験に基づく読み物資料開発を通して—
- 金子あきみ 自然体験学習で育む「生きる力」
—自ら問題を解決し、充実感や必要感を味わう手だての生成（小学校）—
- 川路 篤志 放課後子どもプランにおける遊びのプログラムの開発
—子どもの豊かな相互行為や人間関係の育成を目指して—
- 栗原 康彦 行動の変容を促す保健の授業の開発
—ライフスキル学習を活用して—
- 後藤 亮 小学校社会科学習における歴史認識の深化をはかる指導の工夫
—戦争関連図書資料の活用を手立てとして—
- 澤部 桃子 教育の場で児童の熱中体験を実現するための熱中体験構造モデル
—フロー理論を手がかりとして—
- 竹花 賢治 教職大学院生の成長観
—ストレートマスターとの語りの分析から—
- 田村 春菜 特別な支援を要する児童とそのまわりの児童に配慮した授業づくり
- 中岡 誠也 セルフ・カウンセリングによる教師の自己発見
—小学校の授業場面からの事例研究—
- 花里 拓紀 「小学校外国語活動の円滑な実施」について
- 横澤 康子 知識の活用力を向上させるための授業に関する研究
—英語科における探究を重視した授業実践—
- 森山 弘和 確かな学びのある授業の創造
—「問いの自覚」を促すためのICT機器活用のあり方—
- 吉田 英文 パフォーマンス評価の〈隠れた〉カリキュラム
—「覚える」社会科観から「説明する」社会科観へ—
- 浅野あい子 小学校教育における言語活動の充実に関する研究—児童に身に付けさせたい
言語に関する能力とそれらを踏まえた指導の工夫—
- 阿部みどり 「日本の音楽」を身近に感じられる子どもの育成
—小中連携を図った音楽活動の取り組み—

- 伊藤 雄一 校風を育むカリキュラムマネジメント
—学校の組織と文化の向上を目指して—
- 大森 雅之 児童と保護者、教師を支える学校教育相談システムの在り方
—小学校における支援システムの構築と校内研修の充実をめざして—
- 金子 幹夫 キャリア教育推進のためのカリキュラム開発に関する一考察
—教科学習をととしてキャリア教育を推進する方法論の研究
- 棚 弘之 有効な不登校対策とは—神奈川県の不登校対策—
- 窪田 香 対話能力育成のためのフレームワーク作成
—英語教育の視点から—
- 小林 美音 若手教員の授業力向上をめざしたメンタリング的なかわりに関する研究
- 小林 祐一 公立小学校でE S Dの実践をはじめするには—P L A（参加型学習行動法）を活用した「まちづくり」のカリキュラム開発を通して—
- 鈴木 稔 教師の授業力を高めるための授業研究の有効な進め方
—校内研究の運営等を通して—
- 鈴木 祐子 プロンプターによる若手教員の授業力向上に向けての効果的なアプローチ
- 瀬戸口 卓 幼保小の実りある連携のあり方について
- 鶴田麻也美 保護者を支える学校の在り方
—教育相談・特別支援の視点を加えた学校ガイドブック作成を通して—
- 中野 智美 若手教員と相互に支え合い、高め合うことができる先輩教員モデルの探究
—教員同士の日常的なかわりからの考察—
- 新島 穰二 家庭との連携を図った学ぶ意欲の向上と学習習慣の形成
- 西島 秀一 体力向上を図る魅力ある授業の創造
—低学年の多様な動きをつくる運動遊びを通して—
- 是枝 彌生 音楽教育における道德教育の実践
—道德の時間の指導との関連を図って—
- 村田 悦子 学校改善につながるミドルリーダーの人材育成
—O J Tシステム運用の可能性と課題—

2010（平成 22）年度修了生

- 伊藤 美怜 日記指導の意味と価値についての実践的研究
—書く意欲の高まりに焦点をあてて—
- 今井佳奈子 高等学校英語科における語彙力の育成
—基本語彙の理解・定着を要する生徒への効果的な活動のあり方—
- 入来 祐有 学習意欲を高める指導に関する研究
—ユニバーサルデザインの考え方をういて—
- 榎本 勝也 社会的な見方や考え方を養う体験的な活動を組み入れた授業
—体験的な活動の充実を図るための事前指導の工夫を通して—
- 掛川 美穂 中学校音楽科における音楽を愛好する生徒をはぐくむ指導の工夫
—思考力を生かす学習指導を通して—
- 今 隆史 中学校社会科における社会認識の形成を支援する方法

- 「省察的な態度」と「振り返り」学習活動—
- 佐々由紀子 中学校理科における思考力の育成
—実験における「考えて書く」ことを通して—
- 定常 理奈 算数科における自分を大切に、人も大切にする児童を育てる授業
—教師のかかわりの視点から—
- 中西 祥雄 学校居心地感を増す教師のかかわり
- 中村あゆみ 小学校英語活動を通して、児童の思考を促す
—活動への親しみから英語への親しみへ—
- 橋爪友紀子 向社会的行動が促される道徳授業について
—共感性の発達という視点から—
- 平澤 傑 科学的思考力の育成をめざした中学校理科授業についての研究—概念形成に
繋がる問題解決における、集団活動の役割と観察・実験の役割—
- 堀 朗子 実感のある表現を生み出す言語活動—中学校国語科における「人的情報源」
と「体験」をもとにした新聞づくりを通して—
- 磯野 智博 教員の意欲向上へのアプローチ
—授業力向上へのコンダクト—
- 上野 和広 若手教員の授業力向上を目的とした教師の連携・相互理解のあり方について
—中学校における学年内連携を通して—
- 宇野 賢悟 規範意識を育てるためのカリキュラム開発
- 小川 浩一 夢や希望をはぐくみ、未来に憧れる自己イメージを獲得するための手立て
—キャリア教育の視点を生かした学級活動の取り組みを通して—
- 片山 順也 各教科を通して活用できる言語力を育てる指導の方法
—小学校国語科「書くこと」の学習におけるメタ言語活動の可能性—
- 北川 将来 「ミドル」＝戦略的ポジションとしての主席（主幹教諭）の可能性
- 木下健太郎 社会科授業カルーブリックの開発—思考力・判断力・表現力を育む社会科授
業力向上についての研究—
- 齊藤 沙織 通常の学級における支援員と担任の連携に関する研究
- 滋野 卓也 小学校・中学校、地域リソースの連携・協働による小中一貫教育の在り方に
関する研究—国内、国外（オランダ）の先進地域の事例を通して—
- 杉井みどり 学校が核となり、学校・家庭・地域が一体となった教育の推進
—学校応援団の組織の充実と活動の活性化を目指して—
- 平 武志 教職員の危機意識に関する研究
—小学校における教職員対象の防犯訓練の視点から—
- 瀧澤 誠 地域と学校との継続的・発展的な連携の構築に関する研究
—中学校における「であい・つながり・ひろがり」をめざして—
- 仲地 俊幸 発達障害児支援において子ども理解を深める保護者支援アプローチ
—特別支援コーディネーターが校内支援体制で踏まえる観点—
- 鶴田 昭彦 教員の授業力意識の変化から若手指導を考える
—より良い授業の意識調査から—

- 傳田 学 学校におけるプロジェクトマネジメントの理論と実際
戸部 孝綱 高等学校における特別支援教育拡充のための研究
—教員への質問紙調査を通して—
林 信仁 授業力向上のための授業改善の方法について
—高等学校における対話型の授業を目指して—
林 巨樹 朝の短い時間を活用した心理教育
—R E B T（論理療法）に基づいたセルフヘルパー
日向 義裕 豊かな心をはぐくむ道德教育の時間の指導の充実
—若手教員の授業力を高める取り組みを通して—
柳原 典子 子どもの安心感と学ぶ意欲を高める教師のはたらきかけに関する研究
—授業における発話分析と授業リフレクションシートの開発を通して—
渡邊 千佳 校内研究授業協議会における発話分析に関する研究
—発言分析シート 2010 の開発—

2011（平成 23）年度修了生

- 太田 賢子 自己を見つめ、よりよく生きる力をはぐくむ道德の時間
—小学校中学年における個性の伸長に着目した指導の手立て—
小笠原佳輝 社会参画につながる経済的な見方・考え方の育成を目指した授業づくり
—一人と社会のつながりを実感できる水産業の学習を通して—
阪本 孝太 小学校社会科における学校の沿革指導に関する研究
—中学年地域学習の一環として—
嶋 明香理 学校支援ボランティアの活用
—地域支援コーディネーターの活動を通して—
志摩邑亮一 教員の相互啓発による授業改善方法の開発
—課題の自覚化を促す短縮授業研究法を手がかりとして—
高橋 香織 小学校におけるスピーチ活動を活用した聞く力の育成
中村 直子 学校適応感の向上に関する研究
—国語の話す・聞く領域と関連づけた自分探検 CM の実践を通して—
星野 有里 小学校から中学校へなだらかにつなげる体育指導に関する基礎研究
—小中一貫教育校におけるソフトバレーボールからバレーボールへの移行に
着目して—
宗像 恵太 課題解決的な活動を取り入れた理科授業実践の開発研究
—「仮説生成力」「仮説吟味力」の育成を意図した授業実践から—
森山真由美 ユニバーサルデザインの視点を活かした授業モデル
—小学校国語科における文学教材の指導を中心として—
山岸 勘人 自己肯定感をはぐくむ教師の働きかけについての研究
—児童同士のかかわりを豊かにする方策として—
畛尾 宏明 総合的な学習の時間の充実が学校経営に与える影響
—子ども・教職員・地域の視点から—

- 大谷聡一郎 生徒の思考力・判断力・表現力等を育む指導方法について
—高等学校地歴科における授業実践を中心として—
- 齋藤 健一 中学校におけるキャリア教育の推進
—職場体験学習をいかして—
- 坂元亜由美 運動の日常化を図る指導法の研究
—体づくり運動の教材開発を通して—
- 高橋 昌記 小学校理科における科学的な思考力・表現力を高めるための指導の在り方
—言語活動を充実させた活動を通して—
- 竹嶋 一彦 子どもの主体的な学びを促す ICT の活用
- 谷川 明 小学校作文指導における支援のあり方
—評価との関連を考えて—
- 丁山 永芳 「文学的な文章」における読みの力を育成するために
—学習内容の焦点化を図った学習過程—
- 長島 久美 中学校の学級編成に資する聞き取り調査の在り方
—接続期における小・中連携の方策として—
- 波多江 誠 品川区保幼小連携校園における教員の相互理解について
—エスノグラフィーによる子どもの「居場所」分析を通して—
- 森口 美佳 東京都小学校教員におけるキャリアパスについて
—インタビューからみる副校長不足解消に向けての一考察—
- 森田 純 学級経営に影響を及ぼす教師・児童関係とその評価方法
- 吉田 松寿 学級経営に高い意識を持った教員の育成
—伸長期の教員における効果的な OJT のあり方—
- 山本 律子 子どもたちが安心して過ごせる学級づくりへの提案—「横浜プログラム」を
活かした社会的スキルの確かめと学びの場を考える—

2011（平成 23）年度における主な学事・行事

月・日	主な学事・行事
4 月 1 日	入学式、新入生オリエンテーション
4 月 4 日	現職教員説明会
4 月 5 日	進路指導説明会、実習説明会、M2 による授業科目説明会
4 月 7 日	新入生履修相談会
4 月 11 日	授業開始
4 月 28 日	運営会議・部会
5 月 18 日	連携協力校連絡会
5 月 21 日	大学院説明会
5 月 26 日	運営会議・部会
5 月 27 日	日本教職大学院協会理事会、総会
6 月 23 日	運営会議・部会
7 月 14 日	課題研究中間報告会 I
7 月 15 日	授業終了
7 月 21 日	現職教員創成研修報告会
7 月 22 日	カリキュラム評価、創成研修全体ミーティング、創成研修オリエンテーション
7 月 28 日	運営会議・部会
9 月	2 週間創成研修
9 月 22 日	運営会議・部会
9 月 29 日・30 日	課題研究中間報告会
10 月 4 日	授業開始
10 月 7 日	東京都教育実践発表会
10 月 24 日	東京都連携協議会による訪問
10 月 27 日	運営会議・部会
10 月 29 日・30 日	入試 A 日程
11 月 24 日	運営会議・部会
12 月 11 日	教職大学院協会シンポジウム・ポスターセッション
12 月 22 日	運営会議・部会
12 月 27 日	授業終了
1 月 6 日	授業再開
1 月 26 日	運営会議・部会
2 月 3 日	カリキュラム評価、創成研修全体ミーティング
2 月 9 日・10 日	課題研究グループ別発表会
2 月 10 日	授業終了
2 月 23 日	運営会議・部会
2 月 26 日	入試 B 日程
2 月 29 日・3 月 1 日	課題研究成果報告会
3 月 1 日	巣立ちの会
3 月 1 日・2 日	入試合格者面接
3 月 22 日	運営会議・部会
3 月 23 日	学位記授与式

『東京学芸大学教職大学院年報』刊行規定

- 第1条 東京学芸大学教職大学院は、『東京学芸大学教職大学院年報』（以下、「年報」という）を年1回刊行する。
- 第2条 年報の編集は、運営会議の議を経て、教職大学院長が任命した編集委員5名によって構成する編集委員会によって行う。
- 第3条 年報は、研究論文、実践研究論文、教職大学院における授業実践報告、課題研究の報告、同窓会からの報告などで構成する。
- 第4条 投稿者の資格は、原則として教職大学院の教員、修了生、大学院学生、編集委員会が認めた者とする。
- 第5条 論文等の掲載の可否は編集委員会の審査によって決定する。
- 第6条 年報に掲載された論文等の著作権は教職大学院に帰属する。
- 第7条 年報に掲載された論文等は、web上に無償で公開するものとする。
- 第8条 この規定の改廃は、運営会議の議を経て行う。

『東京学芸大学教職大学院年報』投稿規定

1. 投稿できる原稿は未刊行のものに限る。
2. 投稿を希望する者は、4月30日までに編集委員会に対し、投稿申込票により申し込むこと。メールによる申し込みも可とする。
3. 投稿申込票を受理された者は、6月30日までに、完成原稿2部を提出すること。
4. 投稿論文等は返却しない。
5. 投稿申込票及び投稿論文等は、以下の宛先に送付すること。

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学教職大学院藤井穂高研究室気付
東京学芸大学年報編集委員会

メールアドレス：fujiih@u-gakugei.ac.jp

『東京学芸大学教職大学院年報』執筆要項

1. A4 判用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
2. 40 字×40 行を 1 ページとする。投稿原稿は 12 ページ以内とする（図表、注、参考文献を含む）。
3. 余白は上下左右とも 35mm、ポイントは 10.5 とする。フォントはMS 明朝体とする。
4. 最初のページにタイトル、氏名、所属を記す。本文は 5 行目から始める。
5. 英文の単語を始め、英文および数字は原則として半角入力で行う。
6. 文献の記載については、著者名、書名又は論文名（掲載誌名を明記）、出版社、西暦年号、ページの順で示す。
7. 引用・文献注は、本文と同じ書式で作成し、自動脚注を使用しないこと。
8. インターネットによる資料の注には、URL とともに最終アクセス日を記すこと。
9. 写真や図版の掲載については、執筆者に実費を求めることがある。

以上

東京学芸大学教職大学院年報 第1集

2012（平成24）年9月1日 発行

発行者：東京学芸大学教職大学院

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

電話 042-329-7707

印刷所：サンプロセス

〒207-0012 東京都東大和市新堀1-1435-29

電話 042-561-8813
